

令和2年度市町村保健事業担当者ブロック別研修会開催レポート

- 開催日・会場
- ①北部ブロック 令和2年 9月 3日（木）熊谷地方庁舎
 - ②南部ブロック 令和2年 9月10日（木）With you さいたま
 - ③東部ブロック 令和2年10月 9日（金）春日部地方庁舎
 - ④西部ブロック 令和2年10月13日（火）埼玉会館

今年度のブロック別研修会は、『高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施』をテーマに、埼玉県保健医療部国保医療課と合同開催、埼玉県国民健康保険団体連合会と共催で開催したところ、県内61市町村から103人、県保健所から9人、計112人の職員が参加しました。当初は5月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、時期をずらしての開催となりました。

○講演 『地域の健康課題の抽出と一体的実施の取組み～地域づくりの視点から～』



文京学院大学 米澤純子教授

講演では、地域看護学の教鞭を執られる傍ら、地域住民への健康支援を行う「暮らしの保健室」にも関わっておられます。文京学院大学の米澤純子教授を講師に迎え、ご講演をいただきました。健康課題の分析方法の具体例や地域の高齢者の通いの場に関わった事例も交えてご説明いただいたことで、参加者の理解も深まりました。通いの場への関与について、医療専門職が関わることで高齢者に喜んでもらえるという話は、これから事業を開始する市町村職員にとっても励みになったのではないのでしょうか。

○全体討議

後半は、一体的実施について、本年度からスタートした市町村・実施に向け準備中の市町村それぞれの立場から、実施状況や苦労話など、発表していただきました。今年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業実施への影響が大きかったようです。今回の情報交換により少し不安が軽減され、今後の業務の参考になったのではないのでしょうか。



一体的実施は、地域の高齢者の介護予防・健康づくりのための制度です。広域連合では、市町村や県国保医療課、国保連合会とも連携し、一体的実施を推進してまいります。

参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- ・KDBの活用や分析の視点が参考になった。分析した健康課題を見直し、来年度の計画作成に生かしたい。
- ・PDCAサイクルを改めて学び、一体的実施をきっかけに他事業にも意識していきたい。
- ・通いの場の可能性や重要性を再認識できた。
- ・講師の熱量が伝わってきた。不安もあるが、“できるところから”というひと言で気持ちが楽になった。
- ・データ抽出など、事務職員でも専門職の助言があれば可能な部分も多くあると感じた。